

第1回 大阪広域環境施設組合 廃棄物処理施設建設等委員会 議事要旨

1. 開催日時：令和2年7月20日（月） 午後2時～午後3時30分
2. 開催場所：あべのルシアス11階 共通会議室
3. 出席者
委員：西村委員長、渡辺副委員長、島田委員、谷口委員、水谷委員
事務局：蓑田事務局長、金子施設部長、徳本総務部長、藤井建設企画課長、吉岡施設管理課長、池田総務課長、山本建設企画課長代理（司会）、竹中担当係長、長谷川担当係長、植内担当係長
4. 議題
 - (1) 鶴見工場建替計画について【報告事項】
 - (2) 鶴見工場の処理方式について
 - (3) 鶴見工場における計画ごみ質の決定について
5. 議事要旨
◇委員長の選出
・委員会規則に基づき、委員長に西村委員、副委員長に渡辺委員を選出。
 - (1) 鶴見工場建替計画について【報告事項】
 - ・事務局から資料1～資料5に基づき鶴見工場の概要説明と建設計画（スケジュール、生活環境影響調査など）の説明があり、鶴見工場建替計画の概要等を確認した。
 - (2) 鶴見工場の処理方式について
 - ・事務局より資料6を用いて、処理方式に関する調査結果が報告された。その結果、住之江工場更新計画検討時と同様に、森之宮工場建替計画検討時から技術的に大幅な変更が見られないこと、また住之江工場更新計画検討時以降の受注実績を見てもストーカ式の受注数が多いことから、鶴見工場ではストーカ式を採用することを認めることとした。
 - (3) 鶴見工場における計画ごみ質の決定について
 - ・事務局より資料7に基づき、構成市のごみ排出量の推移やごみ発熱量の調査結果が報告された。審議の結果、事務局提案の発熱量やごみ組成を妥当と判断し、提案どおり認めることとした。
6. 主なご意見等
【例示：○委員、→事務局】
 - (1) 鶴見工場建替計画について【報告事項】
 - 災害ごみ発生量の見積もりは、守口市が組合に加入してから見直したのか。
→大阪市の災害廃棄物処理基本計画の中で、災害ごみの発生量が見込まれている。南海トラフ巨大地震発生時に約1,200万トン、上町断層地震発生時に約1,800万トンが見込まれており、本組合の処理能力（120万トン/年）では、処理しきれない量となっている。そのため災害時にはその時々での工場の余力の中で処理をしていく。今後、国や大阪府の方から整備すべき明確な基準等が示されれば再検討を行う。
 - 生活環境影響調査の調査地点は風向きを考慮して決定したのか。
→例えば大気拡散実験では排ガスがどういった風の影響を受けるかを考慮して調査、予測・

評価し、調査書として取りまとめを行う。

○ごみ収集車両による振動・騒音の影響は検討しているのか。配置計画は現状の配置とほぼ変わらない設定なのか。周辺状況など条件は変わらない中で建築的な許容範囲はどこまでなのか。

→沿道環境の調査地点では、守口市のごみ収集車両も通ることになることからそういった影響も加味して調査していく。南側に第一種住居地域はあるが、細い路地を通過の搬入はあまりない。比較的大きい道路からの搬入、搬出を想定しており、現在と違ったルートは考えていない。本委員会では敷地内にどういった建物を配置していくかという観点で第3回にご審議いただきたいと思う。

○復水器の騒音は大きいので、現状と機器配置が変えられないのではないかと。

→現工場のままの配置で建替えるのかを含めての審議を考えているが、中継施設、公舎などを撤去した上で、敷地内でどういった配置にするかをご審議していただく。南側の住居からは距離をとった配置にする。

○大気拡散実験の40地点は決まっているのか。

→事業計画地から0.5km、1.0km、2.0km、3.0kmの放射円状で方位10°ごとに調査地点を確保している。その中から前日の気象状況などを考慮して40地点を決める。

(2) 鶴見工場の処理方式について

○鶴見工場は住之江工場と同様に、プラント更新を行い、建屋は2世代利用の計画であったが、処理能力が少し大きくなることで、機械設備が収まらないことから建物全体を更新する計画に変更となった。

○森之宮工場更新計画検討時に処理方式を定量的に評価していること、当時から技術的に大幅な変更が見られないこと、住之江工場更新計画検討時以降の受注実績を見てもストーカ式の受注数が多いことから、委員会としては報告どおりストーカ式を了承したいと思う。

(3) 鶴見工場における計画ごみ質の決定について

○以前は厨芥類が多かったため、低質ごみの発熱量が低いのは分かるが、現在(H26-R1)の厨芥類の比率で考えるとかなり低いのではないかと。運転に支障はないのか。助燃をしなくても燃やしきれぬのか。

→現在更新工事中の住之江工場の計画ごみ質は、鶴見工場よりも少し低い設定となっており、高質ごみが12,140kJ/kg、基準ごみが9,630kJ/kg、低質ごみが5,860kJ/kgとなっている。ご指摘のとおり、低質ごみについては助燃が必要となる可能性もあるが、炉の安定性を考慮して設定した。

○計画ごみ質については大変妥当な推算をしている。過去のデータを基に統計的に処理したものと、ごみ減量によってごみ組成に変更があった場合を考慮して設定しているのでもって適している。

○最近、低位発熱量をHuと記載していない。現在の国際単位系はLHV(Lower Heating Value)である。